

# たかやなぎかつみと

発行責任者 高柳 勝巳  
〒378-0055沼田市柳町2570-11  
割田アパート2号  
TEL・FAX 22-6860

## 歩む会ニュー

05年5月1日  
NO11号

HP <http://www.orahoo.com/ayumu-kai/>

Eメール [kt.takyanagi-710@au.wakwak.com](mailto:kt.takyanagi-710@au.wakwak.com)



上は北小学校の入学式の模様、左は新市沼田市誕生！の垂れ幕オープンの瞬間です。合併を選択し人口約5万5千人、面積約443km<sup>2</sup>の新たな自治体の船出となりました。子供達が成人する頃には「合併の特例」期限も切れ、沼田市も立派な成人になっていなくてはなりません。

『…子供は大人の言うことは聞かないが、大人のやることをする。…』校長先生の言葉。肩と胸にずっしり！

3月2日から始まった新市の定例議会は、28日間というロングラン開催となりました。

合併に伴う条例改正は2月に臨時議会を開催し、対応した結果、当局提案46件、請願2件となり、一般質問者は14人でした。

私は①次世代育成支援について②地球温暖化（京都議定書を受けて）について③平和行政について（戦後60周年を向かえ）の3点について質問しました。

また、一般会計+特別会計総額400億円を超える予算審査特別委員会では副委員長という大役を任せられ一段高いところから44人（正副委員長除く）の議員各位を見渡す経験を得ました。

以前が20人だけだっただけに壮観な姿に圧倒される反面、しっかりした存在感を持つ議員を目指さなくては！という緊張感も沸いてきました。

### 第 1 1 号 目 次

新生沼田市誕生に想う！	P
1	
3月定例議会報告	P 2～
6	
市長選決意・総合計画・沼須住宅団地 観光資源・森林農政課題・ふるさと回帰支援 少子化対策・まちなか・道路の活用 健康作り・地産地消と学校給食 情報共有・高齢者対策・観光PR	
3月定例議会高柳報告	P 7～
9	
次世代育成支援行動計画 戦後60年を向かえての平和行政	

一般質問者は前述した通り14人と多人数の為、いくつかの課題別に大括りにしてQ&Aという具合にしてみました。そのために、質問に対して直接答えた回答とは異なる、やや粗雑な報告になりますが紙面の都合上、心情を察して下さい。

## 【総合計画・建設計画】

Q：旧沼田市の第4次総合計画5カ年計画の最終年度となるが、達成率と未達成事業への考えは？

A：主要事務事業として4年間継続してきた。ほぼ、達成できたと考えている。

(今後は) 合併を踏まえ、ハードからソフト事業を見据えた計画としたい。

Q：新市建設計画策定の手法と期間、市民参加検討会議を踏まえた考え方は？

A：前回の総合計画策定の際、行った高校生を含めたアンケートや先般の市民参検討会議の手法は視野に入る。概ね2年で策定していきたい。

Q：特例債は一切使用しないのか？(合併での「英知の結集」とはどのようなことを示すのか？

A：従来からの継続事業を(国の負担率が高いので…) 合併特例債事業へ取り入れようとしたが、適した事業が見つからず壁の厚さを痛感した。従って財政調整基金などから約32億円の調達をして収支均衡を図らざるを得なかった。

財源力と市民行政ニーズの「空欄」を埋めるのが「市民協働」であり、今後のあるべき基礎自治体を語る場合に欠かせないキーワードと捉

## 【次期市長選への決意は？】

Q：市民要望へも国策へも積極果敢に取り組んできた市長だが、市政懇談会での話しや2月の新聞報道での来年の市長選への出馬の決意を聞かせて欲しい。

A：これまでの交付税始めとした税の基準は「人口」であった。21世紀の地方分権を推進していく為には、人口が少なく面積の広い自治体の自立を「自然」「環境」「協働」というキーワードで括らなければならないと強く認識している。

面積の80%が森林原野という、この地域の特性を生かしたまちづくりを取り組んでいきたい。21世紀は地方が国を動かす時代。残り1年の行政執行に全力を上げ、市民全体で立ち上

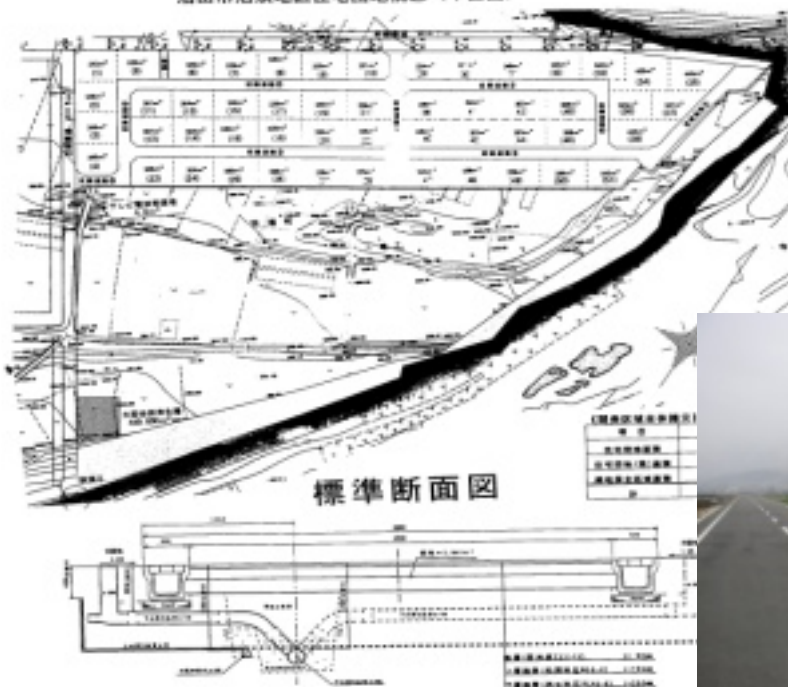
## 【沼須住宅団地構想について】

Q：1月28日上毛新聞報道された。H3年から12年も経過して『県はこの事業から撤退します。』では済まされない。地域の責任者へは、内容証明郵便まで送りつけられ責任追及されている。

これまで慎重に進め、道路整備、造成や上下水整備費総額2億5200万円1棟あたりの費用約500万円というところまで具体化していた。9人のプロジェクトを立ち上げ、対応すると言うが、どのような内容か？

A：地域への「実害」はどうしても避けていきたいという気構えでいる。残念ながら本事業では採算ベースに至らないと判断した。10月までに、地域と相談しながらプロジェクトで対応し、「利活用」の方向

沼田市沼須地区住宅団地構想(平面図)



左図は沼須地区住宅団地の構想平面図  
下は予定地だった沼須地区周辺&道路



## 【資源活用と観光政策】

Q：観光資源の活用視点とネットワーク化への考えは？

A：先日、利根町芸能祭へおじゃました。地域の伝統文化の伝承を高齢者の方々がかなりしっかりと、その役割を担っておられた。更に、芸能祭開催に当たっては、沼田市内との交流はすでに活発に行われていたと聞いた。この活力を見習いたい。

また、観光資源の一体感と言う視点で言うならば、二つに大別でき、一つは観光資源のバリアフリー化（椎坂トンネルや道路網？）でもう一つは総合計画の具体化となろう。

Q：伊香保町の観光事業比率と（合併した際の渋川市の観光事業比率とでは「尺度」が異り、縮小を余儀なくされるや否やという話を聞いた。現状分析と考え方を！

A：「国が光るところを観る」という中国の易教の教えにもあるように、観光資源は大切にしていきたい。

現在、沼田市100万人、白沢59万人、利根144万人の観光客が年間訪れ、合計約300万となる。目標を550万人として、200万人強をエコミュージアムにより誘引していきたい。そのため、観光先進地へも積極的に出向いて「観光カリスマ」などにも学んでいきたい。

Q：森林セラピーがドイツでは、医療として認定された。林野庁も前向きようだ。21世紀の森の活用などはどうか？温泉＋病院や薬膳＋旅館などの組み合わせも考えられる。連合＋JA＋経団連での「100万人のふるさと回帰宣言」も興味深い取り組みだがどうか。

A：健康で頑張れる地域のコンセプトは本地域と合致すると考えている。マイナスイオンの効用、セラピーなど国の推移との適合度を含め、検討させていただきたい。「ふるさと回帰宣言」へ



利根町：しゃくなげの湯の物産売り場

## 【森林や農政課題】

Q：新しい農村農業基本計画が先日発表になった。食料自給率を10年掛けて、カロリーベースで現在40%前後を45%へと引き上げ、守りから攻めの農業という点では「画期的」なことだが、沼田市における地産地消のネットワーク化など考え方を聞きたい。

ベネッセ＋NPOで直売のレベルアップを目指す組織が立ち上がったと聞いた。

A：新計画は3～6000億円の輸出を目指す国の姿勢と聞く。中国へりんごの陽光が1個700円で取引されているのを聞くと、新たな発想も必要と考える。産学連携など県とも相談している。今後も努力していきたい。

Q：（沼須地区の）農業集落排水事業の中止の経過説明を！

A：H10年の（地域の）要望により進めてきた。H14年の「仮想評価アンケート」の実施結果を分析した。（集落排水）希望が50%以下では不採算との分岐に対して、3年以内に接続希望は30%となった。これでは合併浄化槽への転換も止むなしと判断し、2月に地域へも説明し、理解を求めてきた。

Q：木田坂の道路脇の植林は、かつては学生がしていたと記憶している。自然体験教育で実践的だがこうした（学校林活用などの）取り組みは、現在はできないものか？

A：林業の逼迫（ヒッパク）も大変厳しい。自分も学生の頃、植林の記憶がある。教育委員会へ

## 豆知識 「100万人のふるさと回帰宣言」運動？

20世紀は、猛烈な勢いで、わき目も触れず、後ろをも振り向かず「工業生産中心」に邁進してきました。「受験戦争」「過労死」「勝ち組・負け組」などという言葉も同時に生産されてしまった。

平成不況の「底なし沼」につかりながら、ふと浮かぶものがあつた。決して裕福ではないが、家族や近隣との「和み」がそこにはあつた。「刺激」はないが「励み」はある。生きている実感がそこにはある。「我がふるさと」自然、農業、林業、Uターン…。そうだ田舎へ帰ろう！

こうした「想い」を受け入れていく「仕組み」をバックアップする組織が「ふるさと回帰支援センター」です。会員制でセミナーや具体的「帰農」支援を

### 【少子化対策・子育て支援】

Q：少子化で来年には人口減少時代へ突入し、与野党共通の深刻な課題で社会問題化している。(第三子への) 出産祝金20万円の話は母親間では話題になる。福祉重視型予算には感謝するが長期的な取り組みで、結果を出していくことが重要。働きながら子育てする女性などへの総合的な施策や「幼・保一体化」などへの考え方を聞きたい。

A：少子化は深刻な事態との認識は一致。合併の柱の一つは『子供の育成』としてきた。「幼・保一体化」については国が言う「総合的施設」の中身がやや具体化しつつあるので、推移を見守りながら、対応していきたい。

### 【利根町区域に学童保育を！】

Q：同一自治体内での均衡ある発展と公平性の視点からも、是非、空き教室を利用した学童保育の設置を！冬場に外で遊べないハンデも考慮を！

A：旧利根村での経過なども踏まえて対応していきたい。

### 【ファミリーサポートセンター設置を！】

Q：「働きながら子育て」の両立支援の為のファミリーサポートセンターの設置基準が人口5万人となり、新市でも基準対象となる。県内にはすでに7箇所あるが利根沼田にはまだない。

安定運営の為に会員300人程度は必要で、子育てを援助する「まかせて」会員、子育てを依頼する「お願い」会員、どちらもできる「どちらも」会員から成る。需要と供給で言うところで「まかせて会員」の確保がネックと聞いているが、設置の考えはどうか？

A：必要性は認識しているので、設置の方向で検討していきたい。



白沢町(旧役場) 振興局隣にある学童保育所  
本年1月にできたばかり。利根町にも欲しいと言う声も…。働くお母さんの支援策である次世代育成支援の実際はどうかのらう？

### 【街なか・まちづくり関連】

Q：振興局制度の役割と任務は？多様化する住民ニーズへの「小さな自治」の浸透策や「自助・共助・公助」などのあるべき姿のイメージはどんなもの？

A：振興局長の配置は県内唯一。H14年9月頃(考え出されたプランで) 広域面積合併への対応策として各方面から注目されている。

「小さな自治」=埼玉志木市は民間移行思考で群馬小寺知事は小学校区単位の住民自治を目指しているように考える。住民参加の興りは武蔵野市あたりと捉えている。しかし、時代背景は大きく変化してきている。

(行政施策の) 計画段階へ「参加」を目指した旧来のものから、実施段階への責任を(立場の違いは踏まえた上で) 共有できる「参画」時

### 【道路の活用策等】

Q：道路後退線の活用策について質問したが、(藤岡市などは「要綱」作って対応している) その後の経過は？災害に強いまちづくり=新潟の教訓を生かして応急危険判定士育成・活用への考えは？

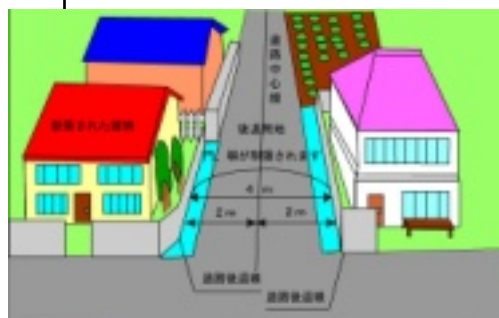
A：道路後退線の件は寄付・買収で考えてみたが経費がかかる。専門職員の育成通じて調査・研究していきたい。

「地域防災計画」の見直しへ反映。判定士などの有資格者を増配置した。H14年より公安委

### 豆知識

#### 道路後退線って何さ？

建築基準法では、家を建てる場合に家のどこかが、4m以上の道路に面していることが、原則条件となっています。しかし、実際は、この建前どおりにはいかず条件が付くことになります。その際、対象となる道路の中心から2mの区域には(将来道路が4mに広がっても良いように…) 構造物を作ってはけません。という決まりになっています。その結果、正式な「道路」ではないが、



実際には、人や車が狭いながらも利用できる「隙間」ができる。これが「道路後退線」という

## 【健康作り・医療費の抑制について】

Q：先にゴールを決めた合併の感が強い。旧利根村から見て、『負担は低く、サービスは高く』なっているか検証したい。

国保税の負担増、人間ドック補助、公的医療負担制度など旧利根村の市民にとって評価できる事柄少ない。

A：合併協議の際、様々な立場の方々からの意見を尊重しながら進めてきた。中長期的な安定サービスサービスという「調整軸」の為、下がるものもあれば、良くなる事柄もある。そして、全体として、良くなるうとして合併を選択してきた。もちろんこれで満足している訳ではない。

Q：特に、歯科検診のフッ素特医事業の廃止は疑問符が残る。この事業は利根圏域内で未実施自治体は旧沼田市と川場村のみという状況だった。医師会の資料によれば、旧沼田市の6年生の虫歯の数が（県内で）一番多かった。

予防は小さいうちから、手を打っておくほど、経費は少なく、結果として医療費も抑制できる。

むしろ、微量のフッ素を水道水へ入れたらどうかという提案さえしたこともある。

A：データとして、そのようなことが出ている事実があること、今日知った。是非、今後の検討



## 【白沢町：堆肥センター】

生枝地区の望郷ラインから少しはずれた場所にあるこうした施設は町内に3つあり、需要と供給が今のところ、バランス良くとれているという。

最近の動向として、堆肥を買う消費者のニーズは高度化してきており、成分にまで及ぶという。

「有機農法」と一言で、片付けていたが塩分やリンなどの量もうまく調整しながら、農業経営は、そう容易い時代ではないようだ。

## 【地産地消・学校給食】

Q：（とりわけ旧利根村の）農業経営をめぐる情勢は厳しい。耕作放棄地はすでに11%になっている。また、有害鳥獣被害対策も大変で、侵入対策フェンスだけでも、すでに3億円かけてきた。今後は市全体の課題となってくると推察する。手があまり掛からない山菜、ブルーベリー、地鶏などでの対策はどうか？

A：（耕作放棄）条件が厳しいところから始まってくる。一旦放棄すると、元に戻すのは難しい。桑畑を熊・猿の餌にしながら、徐々に森林に戻していく話も聞いたことがある。参考にしながら（農林業一体としての）対応を研究していきたい。

Q：観光農業も農家+組合だけの取り組みには限界がある。学校給食への普及は利根村は早くから対応してきた。「農産物カレンダー」など作成して旅館などへもPRしてきたが、今後どのように活用・展開していくか？

A：流通と価格の採算や折れ合い調整が難しい。現在の池田地区へ白沢、利根を「回遊」コースへ結び付けていきたい。

地産地消、学校給食普及の取り組みなどは、むしろ利根村を参考にしたい。学校給食の状況は主食以外は全体量117tに対して地元産の割合は13tで11.3%となり、主要品目の



## 【白沢町：三沢交流広場】

県道沼田・大間々線沿いの川原に位置するこの広場は、ゲートボール場が4面、グランドゴルフ2面、ターゲットバードゴルフ1面が、良く整備されている。

また、隣接された小児向け遊具や、せせらぎを設営した自然公園もある。この場所がかつて、工事などに伴う「残土」の捨て場所だったという話です。高齢者と育児中の世代が同時に利用できる、この広場は入り口がやや見つけにくいが一歩行ってみる価値はある。年間管理運営費は588

## 【情報共有と発信方法】

Q：災害対策としても脚光を浴びてきている電波（ラジオ）による情報の共有化は重要と考えている。中継がないと着信に支障がある地域だが、上毛新聞でも取り上げられた。是非、前向き検討を！

A：昨年12月議会でも答弁したが、大規模災害時には携帯電話が以外に効果が落ちる。ラジオの有効性は理解している。市の情報を積極発信しているFM放送局は民間だが、行政の立場を



利根町：旧鈴木家

ワラ葺き屋根などを整備して、観光資源としても期待される。左脇にはブームの「足湯」も設置場所はしゃくなげの湯の入り口にある。

## 【観光・都市との交流】

Q：新宿郵便局で物産販売を行ったら、多くの準市民の方々が立ち寄ってくれた。新宿駅の管理関係責任者？の人も沼田市出身であった。1日の乗降者が15万人の新宿駅との関係など、準市民の活用に「厚み」が持たせられないか？

A：俳優の小林桂樹氏の親戚で小林平八郎氏が利根町の方だと認識している。（著名人結構いる）

市の講演会にこれまで多くの人が講師として沼田へ来てもらっている。講師にリピーターになってもらうための「仲介人」なども、そうした意味を持っていると考えている。（都市との交流を強化していくとか、沼田を都市へアピールする取り組みの強化の必要性は、強く持っている。）

準市民の活用についても、ご指摘を受け、現在のをベースとしつつも、更に多面的な分

## 【高齢者対策について】

Q：老人のいわゆる「とじこもり」は老化や体力の低下に拍車を掛け、結果として医療費の増加につながってくる。千代田区では予防対応として公園や広場に高齢者用の「健康器具」を設置している。好評であるし、話題にもなっている。子供の遊具に老人は乗れないが、高齢者用のモノになら子供も乗れるので、費用対効果も高いがどうか？

A：参考になる話だが、H17年度は「高齢者筋力トレーニング」（鬼石町の施策を導入）を群馬大学の専門家の指導を受けながら、実施していくのでこちらの推移をとりあえず見守りたい。



利根町：追貝原地区の写真↑と新聞記事↓



## 豆知識

「巨大観光農園構想」（東京新聞）の内容はどんなものなのさ～

去る、3月11日、折りしも3月定例会の真っ最中、上記の見出しで報道された。利根町の吹き割りの滝のR120号を挟んだすぐ上の約300ha。『200戸の農家による観光農園構想が浮上』と掲載されている。

実際はR120号から同地区までの農道の調査費が300万円計上された。事実はこのことのみです。それ以上の「想い」は様々あると考えられますが、農業と地域の将来への不安と期待が入り混じった気持ちが今回の記事へつながったのでは…と考えます。

# 第3回定例議会 高柳一般質問報告NO1

【今回の一般質問は以下①～③の3点です。】

毎回のことなのですが、自分の質問の時は、当然、市長や当局が丁寧に答弁してくれていますし、メモもしながら、やりとりを30～40分間する訳です。その時は努めて冷静に対応しているはずですが、終了後

メモも自分の頭の中も真っ白で「回答」の掲載に自信が持てませんので掲載ができません。ただし、3問

## ①【次世代育成支援行動計画の概要は？】

少子化傾向が顕著になる中、平成15年7月に「次世代育成支援対策推進法」施行を受け各市町村は次世代育成支援のための行動計画策定が義務付けられ、いよいよ本年4月、具体的な子育て支援に関する施策を展開することになっております。その直前である今、子育て支援関連を中心に委託業務と合わせ、現行の行政サービスの実施状況について、どう把握しておられるのか、課題を含めてうかがいます。

また、この状況把握も含め、本市における行動計画が、すでに完成されていると推察いたしますが、進捗状況や、検討内容、そして今後の課題等

## 【①について補足説明 その2】

### 【官と民のベストミックスの時代？】

【10年を5年ごとに区切った時限法】

沼田市次世代育成支援行動計画では、平成21年までに「学童保育」2施設増設、で「ファミリーサポートセンター」も新設を具体的な数値目標とされています。（だから市長も前向き答弁した？）

しかし厚生労働省の財政措置は厳しくなるばかりなのです。（これってないよ～）

より「快適な生活」を求めて、住民ニーズは高度化・多様化していきます。一方、自主財源、国や県からの支援費ともに「右肩上がり」という状況は見えません。

土木・建設だけでない広い意味での「公共事業」は、これまで全て自治体が引き受けたり、背負ってきていました。しかし、「公共」の担い手は自治体だけでは担いきれなくなってきました。

「安易な丸投げ」でない、しっかりした公共担い手議論の下、官と民のベスト・ミックスを模索していく時代に移行しつつあるのか？という趣旨の答弁を市長はしていたように記憶しています。

しっかりした論議としっかりとした「チェック体制」は欠かせないという認識は一致したと感じ

## 【①について補足説明 その1】

次世代育成支援については昨年にも質問しています。今議会は14人中9人までが民生福祉関連の質問でした。

一般質問のページに掲載されている「学童保育」「ファミリーサポートセンター」などはこの行動計画の目標になっているのです。私はまず、この計画の内容に入る前に、新聞等で取り上げられている学童保育等の現場実態の厳しさをどのように把握しているのかを聞いたわけです。

委託事業のチェック体制（お金がないから経費を削減する目的で委託となる）当然、官がやっても民がやっても大変なのは想像が付く訳です。

これは介護の現場でも良く報道されている通りです。委託先の事は「信頼していますから…」だけで良いのでしょうか？これほど極端ではないにしても、社会福祉協議会などへ年間5000万円以上を出して「子供の発育」含めて高齢者福祉など様々な事業を託しています。

厳しいからこそ、「公平」「公正」「安定運営」へ向けた体制も整えていかなくてはならないと考えたのです。

実際の運営は、本当に大変だと言うことは、この間の調査や答弁からは、伝わってきました。どうしていくかは今後の課題だろうなあ。と感じま

## ②【戦後60年、節目の年に不戦新たに！】

今年は、戦後60周年を向かえる節目の年であります。20世紀は大量生産・大量消費と戦争の世紀といわれてきました。21世紀こそは、こうした時代の「負の遺産」から決別し、「平和と環境の世紀に！」との人類の願いもむなしくアメリカへの同時多発9・11テロ、その報復から勃発したイラク戦争など、世界の各地で平和の流れに逆行する争いが続いております。

非核平和都市宣言をしている沼田市として戦後60年を一つの契機とし、この流れに警鐘を鳴らし、二度と再び人類が地球に生きるすべての存在をも否定しかねない戦争への道を歩まぬようまず、市長の基本認識についておうかがいしたいと思います。そして、それを受けて、例年取り組まれている沼田市としての事業の強化や豊富化について

# 第3回定例議会 高柳一般質問報告NO2



連合が取り組んだ核廃絶へむけた千万署名のパンフ



【平和市長会議】  
1982年国連の軍縮会議の場で、広島・長崎両市長の呼び掛けで結成された。  
110カ国、763の世界の

## 【平和市長会議の取り組み等取り入れて積極性を！】

全国市長会でも平和市長会議の働きかけなどを受け、下記に掲載の通り決議を行った。

多額な予算を計上せずとも、市民に平和を啓蒙する策を考えれば、沢山できるであろうし、こうゆう課題こそ、市民協働の発想で取り組むべき！

## 【連合ではNPT（核不拡散条約）の強化署名】

労組の集合体である「連合」でも、今年的重要性を認識し、上記のパンフを使用して街頭署名活動を取り組みました。

久屋原のベトナム付近でご協力を頂いた皆さん、あるいは直接、私がお願いした皆さん御協力大変ありがとうございました。もう5月ですから、マスコミ等でも報じられると思いますよ。

## 核兵器の廃絶を求める決議 (739市23区加盟)

わが国は、唯一の被爆国として核兵器の廃絶を全世界に訴えてきた。核兵器をめぐる世界情勢が深刻さを増す中、本年5月ニューヨーク国連本部で開かれる核不拡散条約（NPT）再検討会議は、核兵器廃絶を進めるうえで大変重要な意義を持つ会議となる。

こうしたなか、平和市長会議等においては2020年までに核兵器廃絶を実現するために「核兵器廃絶のための緊急行動」を展開しているところである。核兵器は、人類の生存をも脅かすものであることから、本会は、核兵器廃絶に向けた国内外の世論がより一層喚起され、核兵器のない世界が一日も早く実現されるよう強く求める。

## ②【地球温暖化対策の具体化急げ！】

地球温暖化対策についておうかがいたします。

1997年末、京都で開かれた気候変動枠組み条約第3回締約国会議で締結されて約8年、激しい国際交渉で繰り返し危機に直面しながら、ようやく発効にたどり着きました。産業革命以来、「20世紀の経済成長のエンジン」だったのが石油や石炭など化石燃料であり、私達の生産様式も生活様式もその恩恵を受け、「モノ」による「便利」「豊かさ」を享受してまいりました。

21世紀を向かえ、産業界も政府も消費者もすべての人々が、排出されるCO2（二酸化炭素）を中心に温暖化へ影響する気体の削減に、本気で取り組む時代となりました。これがライフスタイルとビジネススタイルの転換、つまり、これまでの「延長線上」の取り組みや考え方ではない発想による選択肢であると考えております。そこで、この京都議定書の発効を受け、環境基本計画の具体化や強化策についての市長のお考えをうかがいたいと思います。次には、そうした視点で地域や企業との連携について、研修や研究の充実についての考え方についてうかがいます。

## 【早いとは思ったけど…姿勢の問題】

2月16日に「発効」が決定されたばかりの3月議会で、『何か策は考えていないか？』と質問するのも、当局サイドの方々からすれば『早すぎるよ～そりゃあないよ～』と思われたかもしれません。

しかし、私が聞きたかった内心には、姿勢の問題も含まれていたのです。地方が国を動かす、地方分権一括法が施行されて5年。国の方針や計画を待つ姿勢ではなく、『水と緑の大地・沼田市』を標榜するのであれば、環境というキーワードなどは、国に先駆けて行動を展開する位の気持ちがあってもいい

## 豆知識

## 気体のダイエット！

【京都議定書発効って何さ！】

地球温暖化防止のため、1990年を基準として日本は当時の二酸化炭素換算量の6%を5年で減量という目標を義務付けられた訳です。

これは57億9700万トンの減量目標です。気体を重量で換算するのすごくいいと思いましたが、もっとすごいのは、日本はすでに、この目標より8%も増量排出してしまっているという事です。

つまり、乱暴に言って約58億トンの2倍以上を2012年までに減らさなくてはならないということです。（減量ってなんでも大変ですよええ）



平成17年1月27日

全国市長会

**【頑張ってる人は何処にもいる！】**

自然エネルギーの沼田市職員の自主研究グループの発表会へ参加させていただきました。地域の風力や水力発電への「潜在的可能性」を研究したもののなのですが、非常に良くできたものだと専門家も絶賛しておりました。（私が評価しても威厳はないが…）

また、そこでは、群馬大学の研究も話され、木質ペレット＋高温水蒸気＝水素・一酸化炭素・メタン・二酸化炭素が採れ、ガスエンジンによる発電、メタノール製造などの研究が近い将来「次世代エネルギー」として脚光を浴びてくる可能性なども、短い時間でしたが、交流されました。

こうした研究グループや民間の方々との連携を積極的に取り組めば、森林文化都市沼田の特性生かしたエネルギー・ビジョンの展望は開かれるのではないかと質問しました。あ

**【水も空気もタダじゃない時代へ】**

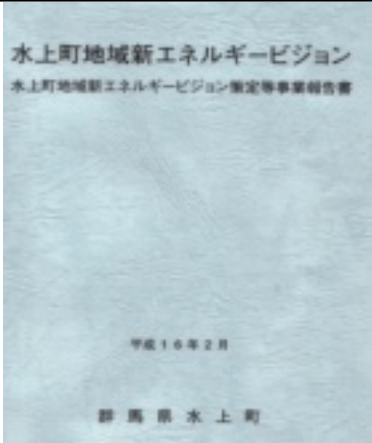
京都メカニズム

この温暖化ガス排出量の削減に異議や不満を訴えている国も少なくない。「先進国」といわれる米国が渋っていたのはご存知の方も多いと思いますが、「発展途上国」と言われる国々からも、不満が出ているのです。これは『今まで散々途上国を利用して経済発展遂げてきておいて、今更、温暖化防止だから規制をしますだと…。冗談じゃないよ…。』

こうした感情にも配慮してか、生まれたのが市場経済原理を活用したメカニズムなのです。先進国での減量分を途上国で遂げたら、その量を「取引量」として先進国分と認めてあげましょうというシステムです。

簡単に言うと広大な途上国の山林・原野に木を植えたり、バイオマス発電を事業ごと輸出してしまうというようなことで、「空気」を「お金」に換算して商売にしてしまえば、先進国にはビジネスチャンス、途上国には、発展や経済援助チャンスとなるはず…。

「ガイアの夜明け」などTVでも、さかんに報道さ



左の冊子の表紙には「水上町地域新エネルギービジョン」と記載されています。（見づらいかも知れませんが）

水上町では、策定委員会を立ち上げ、地域の自然エネルギーの分析、先進地視察や新エネルギー財団報告などの研究、補助事業の可能性などを探り、住民アンケートなども積み重ね、本年度から菜種油の栽培＋廃油回収＝「地元産出燃料」＋「まちづくり」を合体させた事業を始めました。全国では菜種油をキーワードとした事業は珍しくはありませんが

まちづくりと合わせて考えた点が興味と関心をそそります。

**H 1 7 年度予算審査特別委員会報告NO1**

**一般会計 226億3487万8千**

**総額 407億8918万5千円**

歳入 (単位千円)	
市税・地方譲与税	¥6,339,734
地方交付税	¥6,159,000
地方消費税交付金	¥502,000
地方特例交付金その他	¥216,400
自動車取得税交付金	¥212,000
分担金及び負担金	¥240,888
使用料及び手数料	¥187,071
国庫支出金	¥1,525,811
県支出金	¥1,168,968
繰入金	¥3,220,045
諸収入・財産収入寄付等	¥723,161
市債	¥2,139,800

歳出 (単位千円)	
議会費	¥301,974
総務費	¥2,677,634
民生費	¥4,246,811
衛生費	¥2,995,291
労働費	¥134,198
農林水産費	¥1,673,684
商工費	¥535,200
土木費	¥3,073,265
消防費	¥875,005
教育費	¥3,135,446
公債費	¥2,964,514
災害復旧・予備費他	¥21,856

特別会計 (単位千円)	
国民健康保険	¥5,356,680
老人保健	¥5,623,686
介護保険	¥2,959,822
簡易水道事業	¥563,729
下水道事業	¥2,172,349

単純比較はできないものの、旧1市2村の前年度予算総額より、約6億円の減額となりました。

# H 1 7 年度予算審査特別委員会報告NO2

## 【議会費：3億197万4000円】

22人から46人になった新沼田市議会。この中の「議会経費」は約2億4千万円。単純割りで約520万円。果たして私は、この額に見合った役割を果たしているだろうか？…奮闘せねば…。

## 【広報費総額：2858万4000円】

広報ぬまた発行費	約990万円
沼田FM放送活用事業	約570万円
市民カレンダー作成費	約300万円
ホームページ運営事業	約320万円

## 【合併振興基金積立金：2億円】

合併振興基金条例を制定して、早速2億円を積み立てました。この基金は主にソフト事業に対して認められた「合併特例債」です。

質問では、低金利で運用益も出ないのに「借金」するのか？という不安も出されました。10年で総額19億円を積み立てるようです。慎重な運用と有効な振興事業へ役立つようお願いしたいものです。しっかりチェック！（でも、まちづくりだとかに出る特例債はこれ位しかないのです。後は皆ハー



5月12日にオープン予定のふれあい福祉センター管理運営は社会福祉協議会へ2820万円で委託。センター経由で休止していた右の乗り合いタクシーも川田線も追加して乗車率の向上を見込むが…。

## 【生活行政管理事業費総額：4861万5000円】

市町村乗合いバス運行事業	約4000万円
乗合いタクシー試行運行補助金	約767万円

沼田駅を中心に「荘田城社公園」まで一日6往復、上川田の「馬場入口」まで一日3往復する。最高額は700円での「試行運行」となる。期間は、奈良・秋塚線と補助額が同じなので、半年間ということになります。以前の一般質問で「デ

## 【住民自治振興事業費：5963万3000円】

同白沢町振興局分528万5千円、同利根町振興局分565万3千円。地方の人間関係も希薄になる中、地域の潜在能力を引き出し、諸行事を企画運営

## 【総合計画策定調査事業費：711万6000円】

約2年間で新市の総合計画を「市民参加」型で策定する事業で「会議」に要する諸経費と業務委託料ということでした。

質問はコンサルなどに「丸投げ」しないように！という注文に対して、当局も補助的な調査部分のみを委託する。と答弁しました。みんなで希望の

宇楚井・原・上川田線路線図



## 【公園費総額：1億7820万2000円】

上は、改修予定の沼田公園西トイレ費用は約2370万円。その他、城堀川緑地公園整備事業には、本年度4千万円計上。公園の維持管理も、結構お

# H 1 7 年 度 予 算 審 査 特 別 委 員 会 報 告 N O 3



## 【ワークプラザ建設事業費：6582万6000円】

東倉内町、旧保健所跡を利用してシルバー人材センターと福祉作業所（あおぞら）として活躍していた事務所もご覧の通り、だいぶ老朽化が進んできたので、この主ではラストチャンス「補助金事業」として（仮称）ワークプラザとして建て替えることになりました。補助額は3千万円。

4～5月に解体、6～11月に建て替え予定。事務室・作業室・研修室などを設置。

また、質問ではシルバーの運営に対する危惧が出され、助役が県の担当当時の経過を含め「適正運営努力」を答



## 【鐘楼改修事業：578万9000円】

去年は、周囲の板張りが老朽化したので、張り替えました。今年も、長年市民の耳を楽しませてきた鐘を新しく作って、毎朝6時と18時に自動的に鳴るようにするというものです。質問は、自動では「味気ない。ボランティアなどの活用は考えられないか」と資したが「安定性」が課題として当面、自動でいくことになりました。

## 【利根町橋梁関連費：約1億4655万円】

並んでいる2枚の写真の内、右はすでに老朽化が進み、4トン以上の車の進入禁止となっている「千歳橋」で旧役場の入口にあたる。左は「栗原川橋」で役場から下ってすぐの地点にある。車のすれ違いができず、危険で不便という。旧自治体での緊急性・重要性を統一された新



## 【沼小中央校舎解体等整備事業：7173万円】

教育関連施設では他に

「川田小学校校庭造成事業・他」	7820万2千円
「池田小学校屋体床等改修事業」	4545万5千円
「沼田東小学校屋体樋等改修事業」	1683万2千円
「薄根公民館改修事業」	5356万7千円

などなどで教育費総額は31億3544万円

## 【温水プール管理事業：3851万2000円】

右の写真：左の建物が「民間の竜宮の湯」で右側の建物が「温水プール」です。利根町振興局から栗原橋を渡って道なりに…。

「補助金」の関係で管理は農政課が行っていました。また、立派な施設でありながら、利用率は今一歩という状況です。ジャグジー、ウォータースライダー、サウナも完備の、この施設を皆さんどんどん利用して！



**【出産祝金支給事業：1900万円】**

合併の特徴の一つとして開始される事業です。支給額は20万円ですから、計算上は本年95人の第三子を期待値としているのでしょうか。でも、うちのかみさん曰く『20万でもう一人！とはならない。』らしい。子育て時の夫の非協力が相当、つらく脳裏にあるようだった。(…反省)

その他、子供が欲しくても、なかなか叶わない方々のために、不妊治療費補助費も計上していま

**【ごみ関連対策費総額：1億7498万1000円】**

環境啓発事業	76万円
ごみ収集作業委託事業（白沢）	693万円
廃棄物再生利用推進事業	4432万円
指定ごみ袋購入事業	5400万円
有価物集団回収推進事業	3323万円
最終処分場管理運営事業（利根）	2941万円
<b>一般廃棄物処理基本計画策定業務委託事業</b>	<b>628万円</b>

本年4月から、減量対策としてごみの分別が一つ増え「黄色い袋」に入れて回収する事になりました。

一方で集団回収の「団体の維持」は困難な状況にあり、回収奨励事業は委託へと傾斜しようとし

イベントは数々あれど…

**このフェスティバル**

(5月15日 利根沼田文化会館)

を超えるものは、そんなにはない!

連合沼田地域協議会では、地域との連携を図りながら、潜在力の発掘・強化や活性化を模索していく具体的取り組みの一環として「ぐんまふれあいフェスティバル I N利根沼田」を開催することになりました。

沼田市・教育委員会・利根郡町村会・同教育委員会連絡協議会・沼田商工会議所・FM O Z E・利根沼田地域ボランティアセンターなどが応援してくれています。概要は以下の通りです。

- ミニステージ：プロの和太鼓・尺八の演奏をはじめ、(10時～終日) 踊りや演奏発表を7組が競演!
  - ザ・スパ草津：祝! J 1昇格…若干苦戦? 地元チー(11時頃～) ムをトーク&サインで応援しよう!
  - 劇団風の子：知る人ぞ知る。「いつかきっと!」を(11時～) 上演。お子様と是非! (無料)
  - 食べ物屋さん：安心牛丼・スパゲッティ・豚汁・焼きとうもろこし・カレーライス・おでん・かき氷・ポップコーン e t c
  - カルチャー等：気功・アロマ&まゆカット・ビーズ教室・おもちゃの病院
  - フリーマーケット：30以上の出店で大賑わい!
  - プレゼント：地球博ペア・チケットなど (抽選)
- お花は無料で先着100個×2回



**編集後記**

今回の歩む会ニュースの発行が、遅れてしまつて申し訳ありませんでした。

本当は、臨時議会などを含めると、報告すべき事柄は、まだまだあったのです。

しかも、また読む意欲を著しく削いでしまうかも知れない量。新聞と同じで興味のあるところだけ、かじつて読んでくだされば宜しいかと…。

遅れた理由は、まとめる能力の欠如と上記のイベントの準備に、はまつてしまいました。なんだイベントかあ…と鼻で笑わないでください。一応真剣に取り組んでるんですから。

♪「ほくら春先小紅く見に見に、見に来てね〜♪という歌に乗って、春を感じに来てくださうい。私は多分ミニステージの脇で準備係りやっています。

「情報の公開と共感の集積でまちづくり」は私の立候補の際のキーワードです。人と人のパワーが結局、地域を形成していくと思う今日、この頃なのです。